

研究・調査報告書

報告書番号	担当
445	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Why socially deprived populations have a faster resting heart rate: impact of behaviour, life course anthropometry, and biology--the RECORD Cohort 社会的貧困層は安静時心拍数がなぜ高いのか：行動、生活人体測定学、生物学－ the RECORD Cohort Study	
執筆者	
Chaix B, Jouven X, Thomas F, Leal C, Billaudeau N, Bean K, Kestens Y, Jレオ go B, Pannier B, Danchin N.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Soc Sci Med. 2011;73:1543-50.	
キーワード	
フランス、心拍数、社会経済学的因子、住宅隣人、運動、肥満、生物学的因子	
要 旨	
背景： 安静時心拍数は循環器疾患発症/死亡の予測因子であるが、心拍数の疫学および社会病因学に焦点を当てた研究はほとんどなかった。	
方法： The Record Study (7,158 人、2007-2008 年、パリ、フランス)を用いて、安静時心拍数と関連する個人および隣人の社会経済学的因子を分析し、社会的劣勢と安静時心拍数の関係に寄与する、精神的因子 (うつとストレス)、行動 (スポーツによるエネルギー消費、投葉、飲酒、コーヒー、喫煙)、生活人体測定因子 (BMI、腹囲、年少期の環境暴露のマーカーとして下肢長)、生物学的因子 (アルカリホスファターゼ[ALP]、γグルタミルトランスフェラーゼ[γ GTP])それぞれについて評価を行った。	
結果： 個人および隣人の社会経済的因子をスコアとして加えると、安静時心拍数は社会経済的に劣勢になるに従い増加した：最も低い劣勢カテゴリーと比較して、+0.9 (95%信頼区間 +0.2、+0.6)、+1.8 (+1.0、+2.5)、+3.6 (+2.9、+4.4) bpm。社会経済的劣勢と安静時心拍数との関連のうち 21%はスポーツによるエネルギー消費により説明され、9%は腹囲、7%はγ GTP、5%は ALP、そして 3%は下肢長により説明された。	
結論： 更なる研究により、社会経済的劣勢の安静時心拍数に与える影響、および社会的格差が循環器疾患発症/死亡に与える影響の機序について明らかにすべきである。	